

大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会
蓬 菜 む し の 会
第15号 2025.6.10

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』

大友 正生

中学2年生から本格的に蝶を追いかけるようになり、同級生H君（彼も蝶屋）から姫路城に行ったお土産をいただいた。『お菊虫』である。しばらくして中から寄生蜂が出てきた。おかげで蛹は硬い殻のまま保たれた。これがジャコウアゲハとの出会いである。中2の少年には、『麝香』の響きは貴いものに思えた。『お菊の幽霊』『赤い警戒色』、怖いもの見たさワクワクが募る。蝶屋の友だちからの情報によると「穴太駅近くの田の畔にウマノスズクサが生えていてジャコウアゲハもいるかも知れない」という情報を得る。自宅近くにはウマノスズクサもなくジャコウアゲハもない。あこがれは強くなる。



図1 草本性ウマノスズクサ



図2 アリマウマノスズクサ



図3 南方系のウマノスズクサ



図4 中間の様な種

次の年、ウマノスズクサ(図1)を1本、家の庭に移植した。順調にウマノスズクサは増えていった。10年程前にアリマウマノスズクサ(図2)や南方系のウマノスズクサ(図3)、アリマと南方系の中間の様な種(図4)も購入した。

時は流れて2024年4月17日、尾花川の長等市民センター近くを車で通過した際、フワフワと目の前を黒いチョウが飛んだ。「アッ! ジャコウや!」(図5)。ジャコウアゲハの生息地は、他の生息地と異なる点がある。建物(官舎?)の一棟がフェンスで囲われ立ち入る事ができない(図6)。夏場には敷地内の草が刈り取られる。



図5 交尾中のジャコウアゲハ



図6 フェンス越しの生息地

2025 年 4 月 22 日に尾花川にて
♂1♀6 頭を採集した。庭に設置し
たケージ内で食草に産卵させる
(図 7)。日中に産卵させ夕方から
給蜜 (10%の砂糖水) (図 8)、その
後休憩させる。3 日間くりかえし、
その後放蝶する。放した蝶たちが
自然な形で 4 種類のウマノスズク
サに産卵した (図 9)。5 月 4 日幼虫
の孵化が始まる。(図 10)

『お家でジャコウアゲハ』が定住するか、楽しみである。



図7 ケージ内で採卵



図 8 給蜜



図9 自然に産卵



図 10 孵化始まる

往時のびわ湖バレイを振り返る

藤野 谿宏

往時のびわ湖バレイ（滋賀県大津市）は全国有数のアサギマダラの夏季飛来地で、金田忍さん（2025 年 4 月 23 日逝去）を中心に 1997 年から 2022 年まで標識調査が行われました。その標識数の推移を見ると、2007 年までは多くの飛来があったことがわかります¹⁾。

最後の大量飛来年である 2007 年は、標識数 3832 頭に対する移動再捕獲数が 36 頭で、再捕獲率 0.94% となり、この値は過去に例のない大きな値でした。

筆者はこの結果を喜び、それを紹介した配布物を作り、翌年滋賀県で開催された「青少年のための科学の祭典」で紹介することにしました。その配布物が右図です。なお、この0.94%という値は他の夏季標識地における移動再捕獲率に比べると決して高くなく、つまりびわ湖バレイで標識したアサギマダラは主にどこへ飛んでいったのか、今でも謎です。

1) 新BV アサギマダラの会：2023 年びわ湖バレイ ルートセ
ンサス報告、大原と比良の山 2、3-8、2024



活動 20 周年記念展示「昆虫から見た大原の自然」

来場者アンケートの結果と考察

村上 豊

2025 年は本会の活動 20 周年に当たる。その区切りを彩る記念行事として、「昆虫から見た大原の自然」と題する展示会をおこなった。3 月 15 日～4 月 13 日、月曜日を除き開催した日数が 26 日間、その内容詳細については別の記事に譲ることにするが、この稿では提出に協力されたアンケート 117 通の集計結果を示し、そこに若干の考察を試みた。

問 1 あなたのお住まいは次のどれにあてはまりますか。

回答総数 117 (100%)

- | | |
|--------------------------------------|------------|
| ☐ 大原地区 | 23 (19.7%) |
| ☐ 大原以外の京都府内各地 | 63 (53.8%) |
| ☐ 他府県 | 31 (26.5%) |

大原地区在住との回答は約 20%であった。それに対し、芳名帳に記入された 141 件中の大原在住者は 44 件、約 31%であった。この差異については、地元の方々は会場へ気軽にお越しになり、あるいは別の用事のついでに展示を眺められたが、アンケートに回答できるほどの時間の余裕を持たない方も含まれていた、と考えたがどうだろうか。逆に、この展示を見るために、地元以外から来訪された方の多くがアンケートに応じられた結果なのだろう。

問 2 次のうち、あなたのご来場のきっかけになったのはどれですか。

回答総数 117 (100%)

- | | |
|---|------------|
| ☐ 学校からの案内を見て | 5 (4.3%) |
| ☐ 案内ハガキを見て | 23 (19.8%) |
| ☐ ポスターまたはチラシを見て | 7 (6.0%) |
| ☐ 人から教えてもらって | 52 (44.8%) |
| ☐ アサギマダラのメーリングリストを見て | 2 (1.7%) |
| ☐ そのほか | 27 (23.3%) |

「人から教えてもらって」との回答が約 45%と最も多かった。まず一度見学に来た人が好意的な拡散をしたものと捉えたい。また、ポスターやチラシより、案内ハガキがより効果的だったことを示す結果となっている。そのほかの記述欄には、「京都新聞」との記述が 7 件あった。開催期間中に掲載された特集記事を読んで来訪されたようだ。また、1 件だけが「昨年の展示を見て」という記述があった。うれしい限りである。

問 3 ご覧になった展示のうち、興味をお持ちになった分野は次のどれですか（複数回答可）。

回答総数 117 (100%)

- | | |
|--|------------|
| ☐ 大原のオオムラサキの保護活動・・・A | 84 (71.8%) |
| ☐ 大原のアサギマダラとフジバカマ・・・B | 71 (60.7%) |
| ☐ 大原の昆虫・・・C | 56 (47.9%) |

オオムラサキは本会が保護活動を始めて 20 年が経過し、大原と周辺の方々にはかなり知られた存在になっていると思われる。近年認知度が上昇しているアサギマダラを超えるほどの関心をもたれていることに注目したい。

→ 問 3 で A を選んだ人にお聞きします。 次の展示のうち、心に残ったものをすべて選んでください。

回答総数 84 (100%)

☐ オオムラサキと保護活動	59 (71.2%)
☐ 大原のオオムラサキの 1 年	41 (48.8%)
☐ 野外で発見された翅の破片と成虫	28 (33.3%)
☐ 大原のオオムラサキ	35 (41.7%)
☐ エノキを食べる虫たち	19 (22.6%)
☐ オオムラサキの観察と保護活動	39 (46.4%)
☐ 保護活動と新聞等による報道	21 (25.0%)
☐ オオムラサキ・飛翔の軌跡	18 (21.4%)
☐ オオムラサキの天敵と飼育網室	27 (32.1%)

保護活動に関する展示に高い関心が集まっている。このコーナーには標本展示も多かったが、そのインパクトに負けない内容のポスター展示だったと考えて良いだろう。多くの来場者の方にポスターの内容を読んでいただけたようである。

→ 問 3 で B を選んだ人にお聞きします。 次の展示のうち、心に残ったものをすべて選んでください。

回答総数 71 (100%)

☐ 大原のアサギマダラとフジバカマ はじめに	31 (43.7%)
☐ フジバカマとアサギマダラ アサギマダラとマーキング 大原学院 アサギマダラのマーキング	34 (47.9%)
☐ 大原のフジバカマ アサギマダラの大量飛来 フジバカマの花	35 (49.3%)
☐ 大原のアサギマダラ 標識調査報告	33 (46.5%)
☐ オスとメスの違い (標本)	28 (39.4%)
☐ アサギマダラはこうしてチョウになる !	16 (22.5%)
☐ 京都新聞掲載記事	14 (19.7%)
☐ ギナンドロモルフ (標本)	22 (31.0%)
☐ 旅をするチョウたち	31 (43.7%)

近年はマスコミに登場する機会も多くなり、アサギマダラやマーキング調査の知名度が上がっている。今回の展示では「大原の」アサギマダラについての展示が関心を持たれているようだ。大原にもアサギマダラがやってくる、またその原動力となるフジバカマの威力に感心されたに違いない。

→ 問 3 で C を選んだ人にお聞きします。 次の展示のうち、心に残ったものをすべて選んでください。

回答総数 56 (100%)

☐ 大原昆虫目録	16 (28.6%)
☐ 大原の昆虫 (標本多数)	33 (58.9%)

☐ 大原のチョウ・ルートセンサスの結果	19 (33.9%)
☐ チョウから見た大原の環境	18 (32.1%)
☐ 3つの調査結果から見た大原のトンボ	14 (25.0%)
☐ トンボから見た大原の環境	13 (23.2%)
☐ 守っていきたい大原の希少な昆虫	26 (46.4%)
☐ 虫のとり方	11 (19.6%)
☐ キャッチコピーに対する回答	0 (0.0%)

「大原の昆虫」という大きいテーマの展示だったが、多数の標本で大原の昆虫相の多様性を表現する狙いは成功したようだ。また、大原に生息する希少種についても、相当の関心を持ってもらえたようだ。

今回の展示全体を、来場者の方に目的意識を持って観覧してもらえようと、三点のキャッチコピーを提唱した。

「謎の麗人、ミヤマアカネに再び会うことができるのか」

「“大原のオオムラサキは4歳で越冬する”という常識を打ち破れるか」

「地球温暖化が進む中で、アサギマダラは大原に飛来できるか」

これらの回答に相当する展示に対して、関心を持たれた来場者は一人もいなかった。その理由のひとつは、来場者が観覧される前にキャッチコピーを充分アピールできていなかったからではないだろうか。しかしこのように質問を投げる展示形式はユニークで、うまくいけば効果は大きいに違いない。今後に向けて、提示のしかた等を前向きに検討する必要がある。

問4 あなたは、昆虫について次のどれに関心がありますか（複数回答可）。

回答総数 117 (100%)

☐ 昆虫の観察や鑑賞	53 (45.3%)
☐ 昆虫の調査・環境の調査	46 (39.3%)
☐ 希少な昆虫の保護活動	56 (47.9%)
☐ 昆虫など自然の生き物の写真撮影	43 (36.8%)
☐ 昆虫など自然の生き物をモチーフにした（アクセサリーなどの）制作	7 (6.0%)
☐ 昆虫採集や標本の作製	24 (20.5%)
☐ 人の生活での昆虫の利用（昆虫食なども）	16 (13.7%)
☐ 植物の栽培および農業における昆虫の駆除	16 (13.7%)
☐ そのほか	6 (5.1%)

この設問は、昆虫を対象に自分が行動を起こすなら何がしたいのか、あるいは観覧したことで何か行動してみたくなったかを問うてみたものである。一番は希少な昆虫の保護活動（47.9%）となった。これは、今回の展示全体の底辺に流れる自然環境の保全、すなわち本会の活動の精神がこの展示を介して伝わったものと思いたい。また、昆虫の観察や鑑賞、調査、写真撮影、標本作製などへの関心も少なくないことを受けるなら、昆虫を材料にしたワークショップを企画してみても良いかも知れない。

ともあれ、複数回答のこの設問において、117名のチェック総数は267個（228%）で、一人が平均2個以上にチェックを付されたことになる。昆虫に好意的な方に観ていただけたものと想像するところである。

問 5 あなたは、これからの大原の自然環境がどのようなであってほしいとお考えですか。
ご意見を自由にお書き下さい。

以下、いただいたご意見から抜粋して列記する。まず題意に近い、大原の自然環境について。

- ・オオムラサキやアサギマダラがいる、いつまでも自然豊かな大原であってほしいです。
- ・大原に住んでいます。何年か先、家の庭にオオムラサキが飛んでくるのを楽しみにしています。
- ・現在、放置されている畑は少なくなりましたが、山は多く放置されています。人が暮らしながら自然も豊かな大原であってほしいので、どのような取り組みをしていくか、みんなでアイデアを出していきたいです。

大原学院との連携事業に言及されたもの。

- ・子どもたちが活動に関われるのが良いと思います。
- ・メンバーの方々と大原学院の生徒たちとの双方向の活動協力が素晴らしいと感じました。

私たちの活動に着目されたもの。

- ・地道な環境保護活動に力を入れてくださる方々に敬意を表します。
- ・息の長い地道な活動が大きな成果を出されていることに感動を覚えました。素晴らしい充実した展示から多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・すばらしい展示会をありがとうございました。

他団体に所属する方からのコメント。連携のきっかけが出来たようだ。

- ・やましろ里山の会で蝶を観察しています。オオムラサキの保全を目指していますが、なかなか増加せず、ほとんど居なくなってしまうしました。大原のオオムラサキを守る会のような活動が出来たらと思いました。
- ・龍池大原郊外学舎で活動しています。おすすめもあり、フジバカマを育てたいと思っています。学舎での活動が少しでも大原の自然環境保護につながればと思います。

最後に、ある大原地区在住の方の回答。この方は農協 ATM を利用するため来訪し、ついでにご覧になったという。地元大原に向けられた真摯なまなざしを感じる。

- ・すばらしい展示をありがとうございました。観光産業と農業の観点で舗装道路が増えているように感じます。宅地開発もここ数年で進んでいて、人間以外のいきものの多様性への配慮が重要だ（心配だ）なあとと思っています。夏にはクワガタ・カブトの採集に、街からたくさんの方が来ていて、商業目的もありそうだなと危惧しています。また若い世代では虫嫌いの人が増えていて、そういう人が害虫退治を善として駆除がどんどん進んでしまうと、希少種の減少につながる恐れもあると心配です。虫への正しい知識の伝達、教育が、虫を守るために必要だと感じています。

以上のように、今回の展示会アンケートには、観覧した多くの方々から好意的な回答をいただきました。われわれが伝えたかった展示の意図も、概ねうまく伝えることができたと考えて良いだろう。それぞれの回答結果に内包された意味をさらに吟味し、次回以降を考える上での重要な参考資料としたい。

<5 月おもな活動の報告>

◆5 月 7 日 (水) 10:00～、13:30～ (報告者：奥谷)

○参加者 藤野、塩尻、的場、大友、奥谷、計 5 名

○活動内容

(午前) 10:00～

- ・ 会議 ①本日の活動内容
②網室外エノキに掛けた袋内の幼虫数；歩留まりがよくない
③購入予定の倉庫；見積のサイズより大きいものを購入するが修正申請の必要なし
- ・ 作業 ①網室外のエノキを移植し、新倉庫設置場所を整理
②倉庫周辺の除草と整理、堆肥置き場の整理 ③幼虫管理、頭殻集め

(午後) 13:30～ 参加者；藤野、大友

- ・ 作業 フジバカマ園内外の除草

◆5 月 13 日 (火) 10:10～14:05 (報告者：大友)

○参加者 大友、小松、的場、村上、計 4 名

○活動内容：びわ湖バレイルートセンサス

◆5 月 14 日 (水) 10:00～網室、3:30～文化センター (報告者：小松)

○参加者 藤野、塩尻、的場、大友、村上、小松、計 6 名

○活動内容

- ・ 連絡 (1) ボーペイサージュ (山梨ワイン) 支援金入金
(2) 放蝶会について (6/21 実施、打ち合わせ会 6/11)
(3) セブンイレブン助成による物品購入 コンピュータ、プリンター
(4) 文化センター祭りの紹介ポスターについて
(5) 本日の活動内容
- ・ 作業 午前 (1) ルートセンサス (2) 幼虫観察、保管幼虫の袋掛け、フジバカマ畑の除草
午後 (1) プリンター設置 (2) BV への返還標本準備

◆5 月 21 日 (水) 10:00～網室、13:30～文化センター (報告者：小松)

○参加者 藤野、塩尻、的場、大友、村上、小松、計 6 名

○活動内容

- ・ 連絡 (1) 文化センター祭り (2) 大阪自然史博物館の特別展一割引券あり
(3) 本日の活動内容
- ・ 作業 午前 (1) フジバカマのさし芽—文化センター横のフジバカマ使用
(2) 幼虫観察、頭殻の採集 (3) 網室周辺の除草
午後 (1) プリンター設定 (2) 配線

◆5 月 28 日 (水) 10:00～網室、14:30～文化 C (報告者：奥谷)

参加者 小松、藤野、木村、塩尻、的場、大友、村上、奥谷、計 8 名

○活動内容

(午前) 10:00～

- ・ 会議 ①本日の活動内容
②セブンイレブン助成金；要求物品をコメリに発注、倉庫 6/4 に設置
長靴は各自で購入、ファン付きベストは次回サンプルを持参して検討

③放蝶会：6/21 実施 打ち合わせ；6/11. 13:30～

一般参加者；希望者リストを作成、記念品；オオムラサキの標本

④里トラ総会；6/11. 16:00～

・作業 ①ルートセンサス ②幼虫管理；網室内の幼虫を網室外のエノキに移し袋掛け

③網室内の雑草に付いた蛹を網室内に張ったロープに固定

(午後) 14:30～ PC 関係作業

【あとがき】

今年の放蝶会は6月21日に行われることになった。2013年7月6日に第1回を行って以来、徐々に前倒しされて、今年は最も早い実施となった。これからも地球温暖化の影響が見て取れる。気象庁の長期予報によると今年も暑い夏になるようだ。

昨日(6月4日)、大分県姫島村のDさんから電話をいただいた。姫島在住のこの方は時折電話をくれて、アサギマダラの飛来の様子を教えてくれる。今回の電話はスナビキソウにメスが飛来して写真を撮った、初めてのことであったという。そういわれてみれば、私も毎年スナビキソウの生育地に出かけて標識調査を行っているが、これまでメスに出会ったことはない。オスを誘引する力が強く、それに反してメスにとってまったく魅力に欠ける植物だということなのであろう。長年観察を続けているDさんにとっても、この現象はとても稀有なことであったのだ。

そして続けて、目の前の海岸のスナビキソウにアサギマダラが400頭ほど飛び回っているという。久方ぶりの朗報である。今年のアサギマダラの北上は1週間から10日遅れているという。刻々入ってくる他地域の飛来状況も同様である。多くの植物の開花も同様な傾向にあるらしい。これは春先の低温が影響しているのかもしれない。

京都の梅雨入りも近いようだが、今のところ、朝夕は比較的気温が低く過ごしやすく快適である。過去2年の夏の暑さは異常であった。今年の夏は適度な暑さでとどまってくれて、野外の活動が円滑に行えることを望む。

活動20周年記念展示「昆虫から見た大原の自然」の来館者にアンケートをお願いしたが、その結果と考察を村上さんにいただいた。実に興味深い回答を、分かりやすくまとめていただいて感謝のほかない。示唆に富んだ内容である。これからの活動に生かしていかないと回答者に申し訳ないと思った。

(藤野)

= 目 次 =

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』	1
往時のびわ湖バレイを振り返る	2
来場者アンケートの結果と考察	3
5月おもな活動の報告	7
あとがき・目次	8

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会

2025年6月10日

第15号

大原のオオムラサキを守る会 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町54 小松清弘

蓬莱むしの会 〒520-0105 大津市下坂本1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原21-151 藤野適宏